

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度第 2 回野田市児童福祉審議会
議 題 及 び 議 題 ご と の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	[議題] (1) 野田市こども計画骨子案について (公開)
日 時	令和 6 年 1 0 月 8 日 (火) 午後 1 時 3 0 分から午後 2 時 1 0 分まで
場 所	野田市役所高層棟 8 階 大会議室
出 席 委 員 氏 名	会 長 小林 幸男 副会長 森田 邦子 委 員 川鍋 友江、瀧川 雅子、篠塚 功、渡辺 竜太、 小倉 幸雄、荒巻 幸子、深井 祐輔、古橋 和夫、 藤本 司、遠藤 恵美子、米田 博、川村 岩
欠 席 委 員 氏 名	委 員 豊田 沙紀、鈴木 直人、中野 由紀子、岡田 一芳、 古屋 真由美、小熊 良
事 務 局 氏 名	今村 繁 (副市長)、代田明洋 (健康子ども部長)、中村正則 (企画財政部次長兼企画調整課長)、森下元博 (市民生活部次長 兼防災安全課長)、池田亜由美 (健康子ども部次長兼子ども家庭 総合支援課長)、安藤剛行 (生涯学習部参事兼生涯学習課長)、 寺田政司 (営繕課長)、須賀良平 (市民生活課長)、川嶋文和 (商工労政課長)、茂木嘉則 (みどりと水のまちづくり課長)、 海老原純一 (生活支援課長)、岡田勇貴 (障がい者支援課長)、 武田真弓 (人権・男女共同参画推進課長)、内田一也 (児童家庭 課長)、宮下幸治 (子ども保育課長)、峯崎光春 (保健センター 長)、大久保崇雄 (教育総務課長)、廣居信和 (学校教育課 長)、間々田英示 (指導課長)、龍野 淳 (学校教育部主幹兼子 ども家庭総合支援課分室長)、齋藤 豊 (スポーツ推進課長補 佐)、山崎正浩 (児童家庭課長補佐)、松本英行 (児童家庭課子 育て支援係長)、岡田尚子 (児童家庭課児童給付係長)
傍 聴 者	1 名
議 事	会議結果 (概要) は次のとおりである。

司 会 会 長 児童家庭課長 会 長 川 村 委 員 健康子ども部長	令和6年10月8日午後1時30分、令和6年度第2回野田市児童福祉審議会の開会を宣言した。 会議の成立及び公開について報告した。 会議録作成のための録音及び傍聴について了承を得た。 会議資料について説明した。 議題1 野田市こども計画骨子案について 事務局からの説明を求める。 <事務局説明> 説明があった内容について、各委員に質疑及び意見を求める。 資料4ページの計画策定の背景について、こども人口が年々減少している理由を考えた対策が必要ではないか。説明のあった基本体系や理念などは、国や県との連携が図れているが、これまでと同じような計画になってしまい、こども人口の減少が続いてしまうのではないかと危惧している。 また、資料7ページの「子どもの生活実態調査結果」について、小学生、中学生とも「わからない」とする回答が県調査と比べて多い結果となっている。「わからない」という子が多いということは、野田市の教育レベルが不安視されるのではないか。例えば、若い人たちが野田市で家庭を築いていこうとしたときに、「野田市の教育レベルは少し心配だね」ということで、別の地域に移り住む形になっていくのではないかと危惧している。 こども人口の減少と教育レベルに関しては、次期計画の重点施策として盛り込むべきではないか。 少子化の原因は、婚姻数の激減と未婚化であると考えている。少子化問題を考える上では、地方間の人口の奪い合いではなく、東京圏も含めた日本全体を対象として、出生率を高める主役が必要である。国でも「異次元の少子化対策」を打ち出したところであるが、一方で野田市としては、同時に定住促進を図らなければ市としての基礎力が弱まることから、定住促進に努めていきたいと考えている。
--	---

指 導 課 長	全国学力・学習状況調査から、こどもたちの自己肯定感、自己有用感が低いことがわかっている。学力に関わらず、こどもたちに自己肯定感を持たせる、あるいは自己有用感を持たせることが必要である。自分に自信がなければ、スポーツにせよ、勉強にせよ、その他の活動にせよ、なかなかやる気に繋がらないことから、自己肯定感を高めるための取り組みを実施している。 また、授業がわからない可能性もあることから、授業力や指導力を高める研修を県教委、市教委ともに実施している。 さらには、家庭とも協力しながら、こどもたちの学習環境や学習態度を育んでいく必要もあると考えている。土曜授業などの取組を行っているところではあるが、まだまだ課題があると認識していることから、引き続き施策を考えていきたい。
渡 辺 委 員	こども計画の策定に当たって、専任部署の設置など体制強化を図る市町村が多いと感じている。0歳から39歳までを対象とした計画であり、関連部署も多くなることから、取りまとめ役には全体的に幅広く状況を把握することが求められる。現在は児童家庭課を中心に進めているが、今後はどのような形で進めるのか。
児童家庭課長	エンゼルプランについては、これまで児童家庭課を中心に庁内で連携を図りながら進めてきたことから、こども計画についても引き続き児童家庭課で対応したいと考えている。
古 橋 委 員	資料1ページの「基本構成」について、市の実情に合わせた施策も本計画に取り入れるとあるが、具体的にどのあたりが市の実情に合わせた施策となるのか。
児童家庭課長	野田市では、虐待防止条例の制定など児童虐待防止を重点施策として実施してきたことから、次期計画の基本目標として「児童虐待防止対策と社会的援護の推進及びヤングケアラーへの支援」を位置付けている。また、こども・若者の権利擁護についても、児童虐待と密接に関わるものであることから、新たな施策として「こども基本法の周知」を盛り込んでいる。
会 長	ほかに質疑、意見があるか伺う。

会 長	＜質疑・意見無し＞ 「その他」として、各委員に質疑及び意見を求める。
会 長	質疑・意見がないので、以上をもって全て議題が終了した。 議事終了につき、議長の任を解く。 午後２時１０分、閉会を宣言した。